

# 赤十字6大学共同災害医療ワークショップ開催報告

植木晴那<sup>1)</sup> 水本有威<sup>2)</sup> 長田優嵩<sup>3)</sup> 山本廉<sup>4)</sup> 河淵愛弓<sup>5)</sup> 田原恵<sup>6)</sup> 小原真理子<sup>1)</sup>

日本赤十字看護大学 日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学

## 開催の背景

“交流”“学び”“啓蒙”の3つの目的の下、平成28年3月に、赤十字6大学（北海道・秋田・東京・豊田・広島・九州国際）共同で初の災害医療ワークショップが開催された。この活動により参加者へ**災害医療を学ぶきっかけ**を与えられ、全国に赤十字看護大学の**学生間のネットワーク**を今まで以上に広げることができた。第2回の開催を希望する声が多数あり、新たな**学びの機会**や**参加のきっかけ**を作りたいと考え、第2回赤十字6大学共同災害医療ワークショップ（2nd Red Cross Disaster Work Shop：以下RCDWS2nd）の開催を決定し、企画・運営を行った。アンケート結果の振り返りと共に活動内容を報告する。



Red Cross Disaster Work Shop 2nd

## ワークショップの概要



写真1 災害医療概論

Day 1		
11:30~12:00	30min	受付
12:00~12:20	20min	開会式
12:20~12:50	30min	アイスブレイキング
12:50~13:50	60min	災害医療概論
13:50~15:00	45min	CSCATTTについて
15:00~18:00	180min	HUG(避難所運営ゲーム)
18:30~		懇親会



写真2 無線使用情報処理訓練

Day 2		
9:00~9:30	30min	受付
9:30~11:00	90min	START 法トリアージ
11:00~12:30	90min	PAT 法トリアージ
12:30~13:30	60min	ランチョン(各大学活動報告)
13:30~14:45	75min	無線使用情報処理訓練
14:45~15:30	45min	2日間の総まとめ
15:30~17:30	120min	総合シミュレーション
17:30~18:00	30min	閉会式

表1 タイムテーブル

平成29年3月22日から23日の2日間にわたり、日本赤十字看護大学 広尾キャンパスにてRCDWS2ndを開催した。参加人数はスタッフ32名・参加者54名の計86名であった。本ワークショップでは、各大学の教授の支援のもと学生主体で災害医療に急性期に焦点をあてた内容を講義・演習形式で開催した。ワークショップの内容の詳細については表1にタイムテーブルとして記載する。

## 災害の「地域特性」

全国各地に大学がある特色を生かし、2nd RCDWSでは各大学が位置している地域で発生しやすい災害や備えなどについて、各大学代表者1名が災害医療概論の中でパワーポイントを用い情報共有を行った。各大学の内容は以下の通りである。

- 北海道：北海道の地理的な特徴や雪害の種類・対策・設備
- 秋田：災害に対する取り組み災害時における高齢者問題
- 東京：マスマスガザリング
- 豊田：南海トラフ巨大地震、愛知県における地震防災対策
- 広島：広島県豪雨土砂災害の概要、土砂災害への備え
- 九州：九州地方で発生しやすい災害とその備え



写真3 避難所運営ゲーム (HUG)



写真4 総合シミュレーション 担架搬送



写真5 PAT法トリアージ

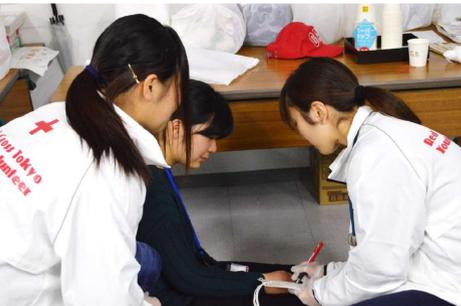


写真6 総合シミュレーション START法トリアージ



写真7 九州地方の災害についてのパワーポイント

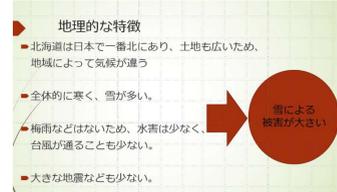


写真8 雪害についてのパワーポイント

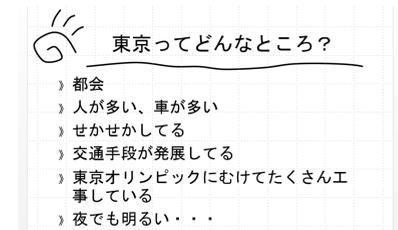


写真9 マスマスガザリングについてのパワーポイント

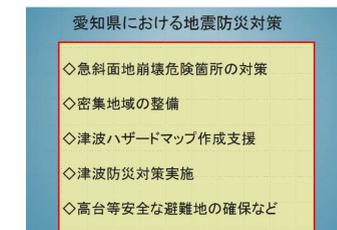
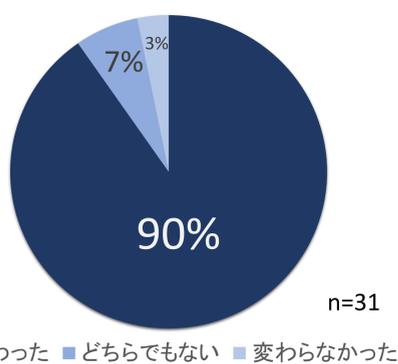


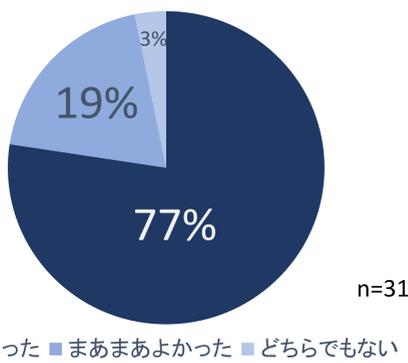
写真10 愛知県についてのパワーポイント

## 結果 - 選択式アンケート・自由記述 -

グラフ1. あなたは今回のワークショップに参加して災害への意識は変わりましたか。



グラフ2. 各地域の災害の特色について講義を行う企画についていかがでしたか。



・いっどこで災害が起きるか分からないので、各地域ごとの災害に視点を当ててくれてとても良かった  
・災害の地域性とその対応の違いについて知ることができてよかった

全体を通して満足の理由について教えてください。(一部抜粋)

- ・知らないことを知ることができたとし、このような活動に参加するのも初めてだったのですごく難しかったけど楽しかったから。
- ・とてもこれからに生かせる勉強ができたから。
- ・1年生でも参加できて大変なこともあったけれど本当に良い経験になったから。
- ・たくさん学ぶことができ、災害看護についてもっと学びたいと思った。6大学の学生と関わるのも今回が初めてだったので、貴重な経験ができたことがとても嬉しい。

今回のワークショップにおいても“交流”“学び”“啓蒙”の3つの目標を達成できた。

## 考察・今後の課題

### 考察

今回のワークショップでも、第1回に引き続き赤十字6大学に所属する学生に、災害医療について学ぶ機会や他大学の学生と交流できる機会を提供できた。加えてこのワークショップをきっかけに多くの参加者は、**災害への意識の変化や災害医療に興味をもつように変化**したと考えられる。今回は6大学の位置する地域特性や災害の特徴に焦点を当てた内容を行うことにより、生活している者がどう感じているのか、同じ日本でも地域によって状況が大きく異なることを実感してもらうことができたのではないかと考える。ワークショップを終え、各大学災害関係のサークル活動を通して活動する参加者の動きがあることから、**災害支援の啓蒙**として本ワークショップの意義は十分に果たされたと考えられる。

### 今後の課題

本ワークショップは、災害医療の中の急性期にのみ焦点を当てた内容で構成されているため、大きな災害医療の分野に対し内容の片寄りがある。看護学生として被災者の気持ちに少しでも気付くことができるような避難所体験などの**亜急性期や慢性期の内容**を含め、各大学の教授の支援のもと企画を検討し、実施していくことが課題である。